

114
A4624



史料募集公告

正十一年四月

凡ソ史ヲ修ムルハ務メテ其實ヲ記スルニ在リ若シ其實ヲ傳フル能ハザレハ何ゾ史ヲ要セン夫レ戊辰ノ變革實ニ我邦古來未曾有ノ大變革ナリ而シテ王室幕府諸藩并ニ民間ニ於テ細カニ其ノ事跡ヲ採擇セバ以テ後世ニ傳フ可キノ極メテ多カリナン然ルニ現今猶親シク之ヲ聞見セシ人多ク存ス今ニシテ之ヲ記録セザレバ人生泡幻ノミ漸々死シ去テ復タ其人亡ク其ノ事實ヲ徵スル能ハザルニ至ラン夫レ官ニ修史館有リ以テ史乘ヲ編纂スルモ堂々タル表



面ノ文書ニ屬シ盡ク世間ノ逸事ヲ蒐輯スル能ハガル可レ
況ヤ人々忌諱ヲ恐レテ該館ニ向テ之ヲ訖カズ筆シテ之ヲ
獻ゼザル者亦必ズ多クラン我輩深ク之ヲ憂ヒ今新々ニ一
社ヲ設ケテ史料ヲ天下ニ募ラントス抑モ戊辰前後ニ於テ
幕府ノ事實湮滅シテ世間ニ傳聞セザル者甚ダ多キガ如レ
何トレバ幕府ノ士往々之ヲ言フヲ愧ヂ或ハ之ヲ言フヲ
憤リ黙々ニ自シテ己ハ者多キヲ以テナリ然レモ若シ之ヲ
言ハズシテ己マバ誰カ聞テ之ヲ筆スル者有ラン筆セザレ
バ竟ニ雲烟ト化レキテ後世必ズ訛傳誤聞ヲ記スル者出ツ

珪月堂製

ルヤ必セリ豈哀シカラズヤ且ツ幕府末路ノ事一ト無クニ
ト無ク盡ク愧ツ可ク憤ル可キ事ノミニハ非ザルナリ其實
ヲ錄シテ以テ世ニ傳フ何ソ私心ヲ其間ニ挿ム須ヒンヤ
王室ノ如キハ亦自カラ逸事多カル可シ況ヤ全國ニ分裂シ
タル諸藩ヲヤ東北諸藩ノ如キ最モ錄ス可キト多キヲ信ズ
若シ各々其ノ親シク聞見スル所ヲ錄シ之ヲ後日ノ史料ニ
供セバ其ノ益必ズ小ナラザル可キナリ我輩ハ今日ニ於テ
必ズ私史ヲ編ス可シト云フニ非ス單ク史料ヲ蒐集セント
云フノミ既ニ正史ヲ修史館ニ成ル有リ後來必ズ之ヲ刑定

増補シ又私史ヲ編スル者有ラン其等ノ為ニ史料ヲ募ル
ハ今日、時ヲ捨テ、復タ得可カラザル也近年頗々私史ヲ
編ム者有リ然レモ一人ノ耳目以テ其ノ聞見スル所ヲ記ス何
ゾ狹隘ヲ免レンマ幕府ノ人ハ王室ノ一ヲ知ラズ諸藩ノ
人ハ幕府ノ一ヲ知ラズ東陬ノ士何ゾ西隅ノ事實ヲ詳悉セ
ンヤ故ニ往々誤謬ヲ記ス是唯ダ利ヲ収ムルノ為ニ我
輩ガ今史料ヲ募ラント云フハ決シテ印行發賣ヲ為スノ意
ニ非ズ史料既ニ得バ之ヲ政府ニ進呈シ之ヲ庫内ニ藏シ後
人ヲノ文獻徵スルニ足ラガルノ嘆無カラシメント欲スル

珪月堂製

ニ在リ史遷ノ史ヲ作ルマ天下後世及ア者無キナリ然レモ其ノ史
料ニ乏シキヤ往々荒唐無稽ノ說ヲ採ル史中決シテ實事ニ
非ザルト斷決ス可キ者比々之レ有リ周末ノ事ノ如キハ史
遷ヲ距ル未ダ遠カラズ然レモ秦趙ノ戰ヲ記スルヤ白起趙
ノ降卒四十万ヲ長平ニ坑ニスト史ノ實ヲ傳ヘザル斯クノ
如シ是レ其ノ親シク聞見スル者ノ記録無クノ徒ラニ口碑
ニ據ルガ故ナリ趙國ノ大ヲ以テスルモ豈其兵四十万ノ戰
地ニ臨ムト有ランマ縱令之レ有ルモ四十万人手ヲ束子テ
人ニ降リ又唯々トメ坑中ニ斃ル、ヲ肯ンゼンヤ然レモ史

遷、時ニ當リ世人皆云フ長平ノ戰ニ四十万人ヲ坑ニセリ
 ト故ニ史遷モ亦斯クノ如ク記セザルヲ得ザリシニ我ガ
 太平記諸書ノ如キモ亦此類多シトス故ニ我輩ハ今日ニ於
 テ其ノ實ヲ録シ以テ後日史家ノ材料ニ供センヲ望ム、ミ
 然レモ今日ノ天地人々皆生計ニ忙ハシ故ニ之ヲ慕ラント
 欲スルモ亦許多ノ資本ヲ要セザル能ハズ因テ先ヅ其方法
 ヲ建ツルガ為メニ畧則ヲ作り以テ江湖ノ有志者ニ管ス

珪月堂製

京橋區南鍋町一丁目
 七番地

兒玉少介



南葛飾郡須崎村
 百六十四番地

成島柳北



明治十二年五月

略則

一 史料ノ原稿ヲ募ル

史料ノ原稿ヲ募ルハ其事實ニ易々ナラズ抑原稿ニ
數種アリ既ニ編シテ書籍トナセルモノアリ未タ編
纂セズ自己ノ記録或ハ日記ノ儘ニテ存スルモノア
リ又ハ其實況ヲ目撃シ或ハ其事故ニ遭遇シテ只其
記憶ニ存スルモノアリ其他往復書翰中ニ於テ緊要
ノ事ヲ論述セシ等其品目枚舉ニ遑アラズ今此等ノ
中ニ於テ事實謬誤ナキモノヲ精選シ普ク蒐集網

羅スルノ手續ヲナスベシ

但シ原稿ヲ賣ラント欲スル人ニ其價ヲ給ス可シ

一原稿ヲ以テ史料ヲ編纂スルコト

編シテ史料ト為スハ必ス社員ニ限ラズ有志者ニ
托シテ其業ニ就カレシノ相當ノ代價ヲ給ス
有リ社員ノ之ニ従事スル者ハ其價ヲ受ケル
勿論ナレモ社外ノ人ヨリ幾分カ其價ヲ減削ス
可シ

一編纂セシ史料ハ政府ニ買上ケラセテ

珪月堂製

編纂セシ史料ハ政府ニ請願シテ購入ノ約契ヲ
為シ置キ編成スルニ從ヒ之ヲ納付スベシ其代價ハ
其紙數ヲ定メテ豫メ約契ヲナレ置ク可シ其難
易等ニ異同有レバ其價モ高低有ル可シト雖モ之
ヲ平均シテ一定ノ價格ヲ定ム可シ

一史料中ノ疑團及事實ノ質問等ヲナスコト

維新ノ後逸ニ十餘年其事故ニ際會セシ者今猶存
在セル多シ因テ事實ノ疑ハシキハ現ニ其人ニ就テ
質正シ又事實ノ隱晦セシトアレバ之ヲ探究シ然ル

後ニ非レバ筆録スベカラズ本社ノ史料ヲ集ムル本
意ハ苟ヒ事實ノ相違ナキヲ要シ以維新ノ大變革ニ際
シタル逸事ヲ後世ニ傳ヘテ遺憾ナカラシムルノ目
的ナレバ廣ク江湖ニ詢議スル所以ナリ

一 社員ヲ募ル

浩蕩ナル史料ヲ編ム其業タル實ニ重大ナリ故ニ
其ノ人ヲ要シ其ノ費ヲ要スルモ亦夥多ナラザ
ルヲ得ズ故ニ先ツ官員學士貴族富豪ノ有力者
ニシテ、社員ト為シ協力シテ其資本ヲ釀スルヲ

珪月堂製

肝要ノトラス

一 社長副社長ヲ置ク

社長副社長各一名ニシテ社中ヨリ撰定ス但社長ハ一
切社務ヲ擔當ス故ニ細大皆其決行スルノ権有レ
トモ事項ノ重大ナル者ハ總テ衆員ノ合議ヲ以テ
決スベシ其他ハ會計委員ニ議シテ施行月々
集會ニ於テ衆員ニ報告スベシ

一 會計委員ヲ置ク

本員ハ二名ニシテ社中ヨリ撰定ス但委員ハ社中ノ

出納會計ヲ授掌スル者ナレバ醵金ヲ銀行へ預ケ
原稿ノ代價筆生ノ給料ヲ仕拂ヒ并ニ政府ノ下金
受取方等總テ之ヲ目ル凡金額ハ多少ニ拘ハラズ社
長副社長、認許ヲ受ケタル後ニアラザレバ私ニ支出
スルヲ禁ス但會計簿ニ其出納決算等一々社
長副社長ノ中ニテ捺印ヲ要ス本頁ハ毎月末會
計表ヲ製シ衆負ニ公示スベシ此他臨時支出ヲ要ス
ルハ社長ハ勿論社員ノ協議ヲ遂クルヲ有ル可シ

一 筆生ヲ傭フ

珠月堂製

筆生ハ文筆達者ナル者ヲ選ビ寫字ヲ為サシメ文書
ノ往復ヲ掌ラシム社中一切ノ記録モ亦其責任ト
ス

一 社員會集ノ

毎月一回社員一統集會シ社務ノ施行法醵金及出
納會計等ノ手續ヲ商議ス其他一切社中ノ方法ヲ
論究スベシ但顯官貴族并事故有リテ出席ニ難キ
者ハ代人ヲ出スモ苦レカラス

一 社員外ノ人ヲ招集スル

時々臨^臨言^言ヲ開キ社負外ニテ維新前後ヨリ現況
ニ遭遇^上親ク其事ヲ聞見セシ者或ハ博ク史学ヲ
講究セシ人々ヲ招集シ史料上ノ疑義及ビ不明瞭ナル
コトヲ質問スベシ